

＜ もくじ ＞	
1. 2021年度総会・大会についてのお知らせ（再掲）	1
2. いきがい・助け合いサミット in 神奈川（分科会企画）	2
3. 研究会からのお知らせ	3
4. 研究会からの概要報告	3
5. 事務局からのお知らせ	6

1. 2021年度総会・大会についてのお知らせ（再掲）

（1）2021年度総会開催方法について

2020年より1年以上続いている新型コロナウイルス感染状況にいまだに改善が見られません。当学会では、2021年6月27日（日）に総会を開催する予定ですが、昨年同様最小規模にて開催することになりました。

総会は招集しますが、会員は会場に来場することなく、委任状の提出あるいは書面（郵送または電磁式）によって議決権を行使することができます。総会の成立には、過半数の委任状ないし議決権行使が必要となりますので、電磁式か郵送法のいずれかによって委任状提出または議決権行使をお願いいたします。

委任状の提出あるいは書面による議決権行使は、「電磁式」と「郵送法」の組み合わせによって行います。JAASNewsをメールでお送りしている会員には、議決権行使を電磁式で行うか郵送で行うかの選択をお尋ねし、5月12日（水）で締め切らせていただきました。

総会議案については、電磁式（メールでお送りするURLから専用フォームで回答）または返信ハガキの郵送のいずれか、ご自身の選択された方法に従って、6月24日までに委任状提出または議決権行使をお願いいたします。詳細については、5月26日にお送りする総会のご案内をお読みください。

- 1) 日時：2021年6月27日（日） 13:00～13:30
- 2) 方法：過半数の会員による書面による議決権行使を前提とする少人数開催
- 3) 開催場所：労働者協同組合連合会会議室

※ 過半数の会員による議決権行使、または会長への委任状が必要となりますので、5月26日にお送りする総会のご案内の説明に従って何卒よろしくお願い申し上げます。

（2）2021年度第20回大会について

今年度の大会は、昨年同様オンライン開催となります。昨年との違いは、参加者は録画映像を見るのではなく、オンラインで全員が同時に参加していただくことになりました。ただし、会員・非会員を問わず事前にお申込みいただき、お送りするZoomのURLからご参加いただく形をとりたいと思います。また、参加者にはシンポジウムの後、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使ったグループ討論にも参加していただく試みも行いますので、よろしくお願い申し上げます。

- 1) 開催日時：2021年6月27日（日） 14:00～16:30
- 2) 開催拠点：労働者協同組合連合会会議室（司会者、基調講演者、パネリスト、コメンテーター、会場サポーターのみが集合）

- 3) 参加方法：Zoom によるオンライン参加
- 4) 申込み方法：参加申し込みフォーム <https://forms.gle/DMUkP6xa1t9eXF1S7>
(下のQRコード)から6月24日までにお申し込みください



大会参加申し込みは会員でも非会員でも可能です。大会開催日が近づいてから、申込者全員に招待メールをお送りします。新型コロナ感染が続き、会場での開催が困難な今年度大会までは、オンライン（Zoom）で参加できる方に限られることはまことに残念ですが、遠方にお住まいの方が参加できるメリットもあります。今後の活動ではできるだけ多くの方の参加が可能な方法について検討して参りますので、なにとぞご容赦ください。

- 5) 参加費：無料
- 6) 大会テーマ：「高齢者のICT活用～コロナ禍を超えて～」
- 7) 基調講演：澤岡詩野（当学会理事・ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員）
- 8) シンポジウム・パネリスト：
 - ★片山嗣規（なかの生涯学習大学「ICTサポートチーム」）
 - ★大津駿介（なかの生涯学習大学「ICTサポートチーム」）
 - ★橋本みどり（なかの生涯学習大学「ICTサポートチーム」）
 - ★柴田 守（会員、ナルク市川、社会情報研究会メンバー）コメンテーター：荒井浩道（当学会理事・駒澤大学教授）
司会：袖井孝子（当学会会長）
- 9) グループ討論（Zoomのブレイクアウトルームを活用）
※ 詳細については、添付のプログラムをご参照ください。

2. いきがい・助け合いサミット in 神奈川（分科会企画）

公益財団法人さわやか福祉財団が主催する「いきがい・助け合いサミット in 神奈川 共生社会をつくる地域包括ケア ～生活を支え合う仕組みと実践～」でシニア社会学会が分科会を企画します。

- 1) 開催日：2021年9月1日（水）～2日（木）
- 2) 会 場：パシフィコ横浜
- 3) 会場参加：1,500名、オンライン視聴：3,500名
- 4) 参加費：資料代として2,000円（会場参加、オンライン視聴共に参加費を兼ねたお1人ずつの金額です）
- 5) シニア社会学会企画の分科会
日時：9月2日（木） 12:45～14:45 第3部パネル 分科会27
テーマ：「心身機能が低下しても、持てる能力を生かして高齢者が社会参加する方法とは」
進行役：澤岡詩野（当学会理事・ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員）
アドバイザー：袖井孝子（当学会会長）
登壇者：
 - ★中林美奈子（富山大学歩行圏コミュニティ研究会代表）
 - ★前田隆行（DAYS BLG!代表）
 - ★椎根 湊（ウェルケアヒルズ馬事公苑介護主任）
- 6) 参加申込みなど詳細は さわやか福祉財団の「いきがい・助け合いサミット」ページをご覧ください。 <https://www.sawayakazaidan.or.jp/summit/osaka/kanagawa2021/>

3. 研究会からのお知らせ

(1) 第20回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年5月19日（水） 15:00~17:00
- 2) 場 所：Zoom開催
- 3) 概 要：大会サポートの検討、各自ICTとコロナについて気になることを一言ずつ話す
※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(2) 第131回「社会保障研究会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年5月19日（水） 18:00~20:00
- 2) 報告者：田中雅英（東京都高齢者福祉施設協議会会長）
- 3) テーマ：「コロナ禍の施設に求められる変革——介護保険の東京23区問題の解決策」
- 4) Zoom で開催いたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。
阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp 小島みさお kojima.misao01@gmail.com
※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

(3) 第12回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年5月28日（金） 18:30~20:00
- 2) 場 所：きゅりあん（品川区立総合区民会館）
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員（YNS やまぶき任意後見サポート会等）
- 4) テーマ：市民が市民を支える社会をつくります
認知症の方など皆が住みよいまちにしたいと思っています。故 志村けんさんの「ひみ婆さん」の笑いを引き継いで人形劇に加えてコントに挑戦します。
※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

4. 研究会からの概要報告

(1) 第19回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2021年4月21日（水） 15:00~17:00
- 2) 場 所：Zoom開催
- 3) テーマ：2021年度活動候補とスケジュールの検討他
 - ・八巻さんより、メンバーからの候補案をまとめた資料の説明があった。助成金は継続的に探す努力は必要だが、今は資金が無くてもできるように、何をやりたいか調査テーマをはっきりさせたい。そのために、前半は広く情報を集めることにする。
 - ・柴田さんのZoom勉強会についてのお話
現在、大学生のボランティアにプレゼンをしてもらっている。ナルクの助け合い活動を多世代型にしていきたいと考え、大学生にシニアとの関係について聞いている。ナルクのボランティア活動を大学生のやっていることをコラボしていきたい。
ナルク市川での取り組みとして、大学生がサポーターとして有償で駆けつけてくれるようなネットワークを作る試みである。
⇒大会での柴田さんの発表を多くの方に見ていただくには、という話題にも発展
Zoomでのオンタイム参加が難しい仲間も多いため、録画して見ていただくという方法もあるのではないかと。（富田）
 - ・オンライン支援 総会のサポートについて
ブレイクアウトルーム内の人数は、話しを進めるには5~6人が限界。参加人数が多ければブレイクアウトルームなしという選択もあり得る。ブレイクアウトルームなしの場合は、研究会メンバーが「聴衆からの質問を準備する」という運用になるかもしれない。そのためにも「出講者たちの話の内容」の事前提供を利用する必要。
技術的問題でブレイクアウトルームに入れなかった参加者の救済が問題。

- 入れなかった人はメインルームに残るので、残った方はそこで同じことをする。
・ブレイクアウトルームの司会者の想定 安田(和)、齋田、富田、森嵩、小平、中村
(森 記)

(2) 130回「社会保障」研究会の報告

- 1) 日 時：2021年4月21日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：近藤 和子氏(マザリング&ライフマネジメント研究所代表・
公益財団法人日本尊厳死協会理事・みんなのMITORI 研究会代表)
- 3) テーマ：「次世代への贈り物〜リビング・ウィル〜」
- 4) Zoomで開催。参加者 19人

団塊世代がすべて後期高齢者になる2025年には多死社会を迎える。団塊世代の一員として、リビング・ウィルを次世代への贈り物にしたい。リビング・ウィルとは、終末期医療における事前指示書であり、日本尊厳死協会では、会員からリビング・ウィルを預かるとともに、リビング・ウィルを受容する医師を支援し、その存在を広く知らしめる活動をしている。日本尊厳死協会は、創立45周年を迎え、会員は約13万人。現在、厚労省や日本財団から助成を得て、遺族の調査をしている。亡くなった人の遺志を次世代に生かすことは最後の社会参加である。

看取りの問題に関心を抱くきっかけは、看護師であった1980年代に岡村昭彦氏の講演を聞いたことであり、その後、故日野原重明先生の「テnder・ラビング・ケア(TLC)」に感銘を受けたことにある。在宅看取りの壁は、「不安」や「恐れ」であり、寄り添い同伴してくれる優しいサポーターがいることで、この壁を取り除くことができる。看護師として、出産や子育てへの支援をしてきたことの延長として、看取りケアをとらえおり、亡くなる人だけでなく、その家族にも寄り添ってきた。

出産や看取りなど人生の危機に寄りそう人を Doula とよび、欧米では有償の職業として確立している。Doula は情緒的支援をする人であり、特別な資格は不要で、誰でもできる。経験豊かな高齢女性の潜在力を Doula として生かすことが可能だ。参加者からは、尊厳死協会や Doula について活発な議論が展開された。(袖井孝子 記)

(3) 第20回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2021年4月28日(水) 16:00~18:00
- 2) 場 所：Zoom 開催 ファシリテーター 寺本真子(不動産経営) 参加者8名
- 3) テーマ：「自分らしく生きる」

(昨年10月に第19回研究会を開催の後、月1回の割合で、「近況報告会」を開催してきたが、2021年4月より、心新たにテーマを設定して、研究会を開催していくことになった。よって、今回の月例会を第20回「ライフプロデュース」研究会 開催とする。)

最初に近況報告も兼ねて、今気になる言葉をメンバーの皆さんに発表して頂いた。色々なご意見が出たが、特にコロナ禍もあり「丁寧に生きる」「今・この時」というご意見が多数あり、メンバーが「今を生きる」ということに意識を向けていらっしゃるという共通認識を持ってスタートした。その後はファシリテーターが質疑応答するかたちでフリートーク。特に、「出来ない理由が全て克服できたらどんな自分になりたいですか。どんな夢を実現したいですか。」の質問に対して、「今は体調を崩しているが、この現状を克服できる自分だと自分自身に自信を持って言いたい。」「色々なことがあるが 次世代の人達にとって少しでも、ああいう大人になりたいという生き方をしたい。」「最後は人間性・徳だと思う。」「New My way」「名のない花からも多くのことを学べる。」「悩んだら自分を甘やかして遊んだらいい。」等々、実体験から出る力強い意見にはエネルギーが溢れていた。

今回のテーマ「自分らしく生きる」も日常生活で話題にしたら「青臭い」と言われてしまったことだろう。それでも真摯にこのテーマに向かい合い 忌憚のない意見交換をできたことに感謝

したい。「自分の意見を安心して言える場所、聞いて貰える相手がいる場所」があることがどんなに貴重であるかに気づけたことは、コロナ禍のプラスの置きみあげかもしれない。

(寺本眞子 記)

(4) 第63回「災害と地域社会」研究会の報告

1) 日 時：2021年5月8日(土) 13:30~15:30

2) 方 法：Zoomによる会議方式

3) 報告者：野坂 真(早稲田大学)

4) テーマ(仮)：「地域社会における災害復興と地域存続—東日本大震災前後における岩手県大槌町・宮城県気仙沼市の津波被災地域を事例として—」

野坂さんは、2011年の東日本大震災が起こった年から岩手県大槌町に通い始め、10年を迎える2021年2月に、早稲田大学でその研究成果をまとめた論文の審査を受け3月に博士号を取得しました。またその調査の一部をまとめた論文を『エイジレスフォーラム19』に投稿されています。今回は博士論文の概要を、多くの関連する諸団体のメンバーも参加する共催研究会で報告していただくことになりました。

本論文は、現地に長期間通い続けることによって地域の復興過程を住民組織に注目してつぶさに参与観察した結果をまとめたものです。また、自らも復興過程に直接関わる支援者として活動する中で、その研究の構想を練り上げ、重視する分析視点を整理しています。

研究目的は、被災前の地域特性と被害状況を考慮した、地方(地方都市およびその周辺の地域)における災害復興のあり方を検討する上で必要となる視点を提示することであり、その方法は、①災害過程論に基づいて、地域の災害前から復興期に至る長期の災害過程時期区分を行うにあたりとくに災害以前の高齢化・人口減少に対する町のマクロな計画とミクロな個人レベルの生活再建をつなぐ位置にある水産業者や住民組織など中位レベルの動きに注目すること、②津波被害では大きな人的被害を受けた大槌町の復興過程を、比較的行政や組織の動きによって成功裡に復興過程に移行したように見受けられる気仙沼市と比較検討することで、大槌町の復興過程の住民と住民組織の見えにくい側面を浮き彫りにすることに努めたことが特徴です。

津波被害で大きなダメージを受けた大槌町で、住民の記憶や限られた資料から災害以前にさかのぼって住民組織の活動を調べ、災害復興過程で複数領域の地域集団間(産業、福祉、教育、文化)の相互関連性を見ることや、地域集団を支える住民層のライフスタイル、意識や心理にも注目することにより、災害復興過程について他の研究には見られない側面が明らかになりました。つまり、重要な活動の担い手を失いながら多くの行政レベルの復興計画が頓挫する中で、①残された住民たちが生活再建をする過程で領域横断的な活動をしていくことで各領域の地域集団が連携を保っていったこと、②諦めずに長期にわたって復興していく過程で住民たちの「自己納得感」が重要な意味を持つこと、③その過程で地域外部からの支援者の行う活動が地域で受け入れられるための条件が見えてきたことなどから、大槌町で、復興期以降も持続可能な地域社会を維持する仕組みを作り上げていく過程が詳細に分析できたということです。

論文指導された浦野教授からは、復興する上で重要な人材条件を失った大槌町住民が、どのようにその喪失部分を埋め合わせて復興に向けて動き出したかを詳細に分析し、分析視点と手法を整理して成果をまとめた点が評価のポイントであったとのコメントがありました。また、吉川忠寛(防災都市計画研究所所長)さんからは、災害復興が地域存続に及ぼす影響についてもう少し主張を正面から述べてもよいのではないかと、復興の主体の単位の1つ「住民層」や「裏の機能」という表現がわかりにくいなどのコメント、麦倉哲(岩手大学教授)さんからはともに調査に当たってきた地道な協力へのねぎらいと研究成果への賛辞がありました。時間の関係で、その他の意見交換ができなかったことが悔やまれます。(長田 記)

5. 事務局からのお願い

<会員情報変更時のご連絡のお願い>

コロナ禍中、各種ご連絡をメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・eメールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による会員情報変更等の連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あてに、eメール: jaas@circus.ocn.ne.jp 又は郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願いいたします。

<6月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News 第262号の発行日は、6月16日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、6月11日（金）までをお願いいたします。

<緊急事態宣言中の事務所の開室について>

事務局は、「緊急事態宣言」発出を受け2021年5月31日（月）まで休室とします。その後は様子を見て開室日程をホームページにてお知らせします。その間、電話・FAX はご利用できませんのでご容赦ください。ご不便をおかけしますが、ご用件、お問合せは、出来るかぎりeメールでお願いいたします。

一般社団法人シニア社会学会・事務局（水、および月または金オープン）
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202
電話&FAX：(03) 5778-4728
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/